

# 帝国農会幹事 岡田温<sup>1)</sup>

—— 帝国農会幹事時代⑤ ——

川 東 埤 弘

## 目 次

はじめに

第1章 大正10年

第2章 大正11年（以上、第18巻第1号）

第3章 大正12年

第4章 大正13年（以上、第18巻第2号）

第5章 大正14年

第6章 大正15年（以上、第18巻第5号）

第7章 昭和2年

第8章 昭和3年（以上、第18巻第6号）

第9章 昭和4年（本号）

## は じ め に

前稿<sup>1)</sup>で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～昭和3年まで考察したが、本稿では昭和4年（1929年）の温の活動について考察することとする。本年は、第一次大戦後の農業・農村不況がさらに深刻化した時期で、帝国農会は、引き続き、農業、農民、農村危機打開のために、下からの農政運動、農村振興運動を盛り上げていき、温がその中心的役割をになっていた。

---

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温(7)(8)(9)(10)－帝国農会幹事時代①②③④－」(『松山大学論集』第18巻第1号, 2, 5, 6号, 2006年4月, 6月, 12月, 2007年2月)。

## 第9章 昭和4年

昭和4年(1929)、温、58歳から59歳にかけての年である。帝国農会の幹事を続けている。

本年は恐慌・不況が続き、農村の危機が深まっていた。米価(暦年平均、1石あたり)は昭和元年の37.86円が、2年に35.26円、3年に31.03円、4年に29.07円へと一貫して下落・暴落している<sup>2)</sup>。この米価低落の原因は、慢性的不況と朝鮮・台湾からの移入米の激増のためであった。米価問題は小作争議とならんで、農政界の2大問題であった。

この米価の低落に対し、帝国農会は1月に道府県農会長会議、2月に全国農会大会を開催し、さらに6月には再度道府県農会長会議を開催するなど、下からの農政運動を強力に展開し、とくに、米価引き上げ問題にとりくみ、温はその運動の中心的位置にいた。

また、本年、従来道府県農会連合が行っていた農産物販売斡旋事業を帝国農会が統一することとなり、7月に帝国農会に販売斡旋部を設置した。この販売斡旋の統一化に尽力したのも温であった。

また、5月、田中義一政友会内閣は、第56帝国議会(昭和3年12月24日～4年3月25日)において、今後の米穀政策の根本方針について、また米穀需給調節特別会計の制度について根本的に調査研究するために調査会を設置することを明らかにし、5月22日に米穀調査会を設置したが、温はその幹事に任命され、米穀政策の立案に関与した。

本年、中央政界で変化があった。7月田中義一政友会内閣が張作霖事件の責任をとって総辞職し、代わって浜口雄幸民政党内閣が誕生した。浜口内閣の緊縮政策は、農林省予算の削減となり、農業・農会にとって厳しい内閣となった。

---

2) 加用信文監修、農政調査会編集『改訂日本農業基礎統計』(農林統計協会、1977年)546頁。

また、温は多忙の中執筆を続けていた、念願の著作『農業経営と農政』を4月29日ついに脱稿し、6月15日龍吟社から出版した。その著作で温は家族小農経営論の立場を鮮明にした。

また、家族・親戚関係では、新宅の叔父岡田義朗が死亡し、その家政整理に奔走している。

以下、本年の温の多岐にわたる活動を見てみよう。

### 第1節 帝国農会幹事活動関係

昭和4年(1929)、温は正月を故郷で迎えた。1日は午前9時より石井小学校における新年の拝賀式に出席し、午後は2時から石井村大字南土居の新年宴会に出席した。夜は著書の原稿を執筆した。2、3日は来訪者(野口文雄、永木亀喜等)に接し、また、著書を執筆し、総論の部を終えている。4日は愛媛県農会を訪問。5日は松田石井村長等の来訪者に接し、また、新宅の義朗宅の頼母子講の相談等を行った。

1月7日、温は午前9時松山発、大洲行きの自動車に乗車し、大洲に行き、同町公会堂における喜多郡農会主催の農業経営講演会に出席し、来会の70、80名に対し、約2時間半ほど講演を行った。終わって、西宇和郡八幡浜に行き、宿泊した。翌8日、温は西宇和郡農会主催の町村農会総代会に出席し、来会の100余名に対し、午前11時より午後3時まで農会経営について講演を行った。終わって、東京での帝国農会幹事として活動するために、夜11時半の八幡浜発の第15宇和島丸に乗り、上京の途につき、10日の午前6時大阪港につき、9時50分梅田発の特急に乗換え、午後10時東京に戻った。

1月11日、温は帝農に出勤し、留守中の雑務を処理した。そして、休む暇なく、この日午後7時上野発にて群馬県に出張した。その夜は碓井郡安中町につき、宿泊した。12日は群馬県農会の永井技師等とともに、碓井郡の農家(養鯉、養蚕、果樹)を視察した。翌13日、温は群馬県農会主催の農業経営中堅者養成講習会に出席し、来会の30名に対し、午前9時半より午後4時まで農

産物価格について講義を行い、終わって、帰京した。

1月14日以降、温は帝農に出勤し、種々の業務を行った。14、15日は表彰郡農会の審査、16日は著書の執筆（総論の手入れ）、17日は郡村農会審査を行った。18日、温は埼玉県に出張し、比企郡農会主催の農会総代会に出席し、農会の使命について講演し、帰京した。19日は神田市場事務所を訪問し、帝農の農産物販売斡旋事務所について協議した。20日は著書の執筆、21日は午前は幹事会を開き、今夜の評議員会および道府県農会長会議への議題を協議し、夕方午後5時より帝農事務所建築委員会と評議員会を開催した。

さて、帝農は田中義一政友会内閣下の第56帝国議会（昭和3年12月26日～4年3月25日）にむけて、強力な農政運動、米価引き上げ運動を展開した。

1月22日から25日までの4日間、帝農は道府県農会長会議を本会事務所に開催し、「米価政策に関する件」を協議した。24日の日記に「道府県農会長会議開催。米問題やかまし委員二十名ヲ選ビ委託ス（案ノ作成ヲ）」とある。そして、25日の会議で「米価政策に関する件」を決議した。それは、要望事項として、1. 米穀需給特別会計を改正して借入金の限度を4億円にすること、2. 米穀法施行に要する事業費以外の経費及倉庫建設費を一般会計の負担とすること、3. 米穀需給特別会計の損益は一定の年限を以て一般会計に移すこと、4. 朝鮮及台湾に米穀法を適用すること、5. 外米輸入制限を朝鮮及台湾に於いても勵行すること、6. 緊急に米穀の大量買上げを実行することであり、実行方法として、1. 2月12、13の両日帝国農会、帝国農政協会主催の下に全国農民大会を開催すること。右大会の出席者数は1郡市2名以上とすること、であった<sup>3)</sup>。このように、帝農側の米価政策要求は、内地米の大量買上げ、朝鮮・台湾への米穀法適用、外米は輸入制限であり、この大会ではまだ、植民地米の移入制限論は打ち出していなかった。翌26日、道府県農会長会議の決議事項を受けて、大会参加者らは総理官邸や大蔵、農林の各大臣ならびに

---

3) 『帝国農会報』第19巻第2号、昭和4年2月。

政党本部を訪問し、陳情活動を行った。温は民政党本部を訪問した。終わって、温は夜9時15分発にて京都に出張の途についた。誠に多忙である。

1月27日、温は午前8時20分京都に着し、京都中央卸売市場内の共楽館における京都府農会主催の第8回府下町村農会長会に出席し、来会の170余名に対し、午後温が講演を行った。翌28日は、中央卸売市場にて開催の俵米品評会の授賞式に出席し、終わって、宴会に出席し、また御所を拝観し、夜8時20分発にて帰京の途に着き、翌29日午前9時10分東京に着した。30日は終日在宅し、著書の執筆を行った。31日は出勤し、『帝国農会報』の巻頭言の執筆等を行った。

2月、田中内閣下の帝国議会開会中であり、温は農政研究会の業務（議会への法律案、建議案の作成）や全国農会大会の開催、衆議院、貴族院への陳情等で多忙を極めた。1日は帝農の正副会長及び幹事会を開き、農政研究会より提案する法律案および建議案の協議を行った。2日は議会内の図書館にて農政研究会の幹事会を開催し、来る農政研究会総会への議案を決めた。3日～6日は著書の執筆等を行った。7日は鉄道協会にて農政研究会総会を開催した。この総会で、農政議員より米問題について米穀需給調節特別会計法改正案を提案すること、また、米価政策、自作農創設維持、肥料政策に関する3建議案の提出を決めた。この日の日記に「鉄道協会ニテ農政研究会総会ヲ開ク。六十名出席。三輪市太郎君座長トナリ、米問題ハ法律改正案トシテ提出スルコトニ強行論勝ヲ制ス」とある。そして、その文案が幹事（実際は温）に任された<sup>4)</sup>。9日、温は農政研究会幹事会へ提出する建議案を草した。「正午衆議院ニ行キ、宮坂君ヲ伴ヒ、米価維持及自作農等ノ建議案ヲ認ム」。10日、11日は著書原稿執筆等を行った。12日、温は衆議院にて農政研究会幹事会を開催し、米穀需給調節特別会計法改正法律案と自作農創設等の3建議案を協議し、提出者を決めた。この日の日記に「衆議院ニ行キ、農政研究会幹事会ヲ開キ、米穀法改正法

4) 『帝国農会報』第19巻第3号、昭和4年3月。なお、農政研究会総会は温の日記では2月6日だが、『帝国農会報』では2月7日で、温の記述の間違いと思われる。

律案ト自作農，肥料案及米穀法根本改正ニ対スル建議案四ケニ付協議ス。午后二時頃漸クマトマリ，民政党ノ川崎，西村両氏提案者トナル」とある。このように，温が，農政研究会の事務局を担当し，米穀需給調節特別会計法改正法律案（米穀会計の運用資金を現行2億円から4億年に倍増すること）や自作農創設維持助成等の建議案作成に関し，大きな役割を果たしていたことが判明しよう。13，14日は全国農会大会の準備に忙殺された。

2月15日，帝国農会及び帝国農政協会は，全国農会大会を東京赤坂溜池三會堂において開催した。田中内閣に下から圧力をかけるためであった。この日全国から1,200名ほどが参集し，「従来ナキ緊張セル會議」となった。まず，午前10時矢作会長の挨拶があり，大会宣言の審議がなされ，修正のうえ可決され，ついで決議も満場一致で可決された。大会宣言は「今や米価惨落シ農村ノ不安ハ頗ル著シキモノアリ，若シ之ヲ現状ニ放任センカ農村ノ社会的秩序ノ維持亦保シ難カラントス，此ノ焦眉ノ急ニ処スルニハ米穀運用資金ヲ豊カニシ，米穀ノ大量買上ヲ行フト共ニ米穀法施行区域ヲ朝鮮台湾ニ拡張施行スルノ外ナシ。斯クノ如クシテ農村刻下ノ苦悶ヲ除クト共ニ農家經濟ノ安定ヲ図リ農業經營費ノ低減ヲ期スルハ農村振興上須臾モ忽ニスベカラザルヲ以テ，之ガ根本的方策トシテハ自作農創設維持及肥料政策ノ確立ヲ要ス。茲ニ全国農会大会ハ農村ノ現状ニ鑑ミ，極力之レガ実現ヲ期セムトス敢テ宣ス」というものであった。また，決議は「全国農会大会ハ左記事項ノ急速ナル実現ヲ期ス。一，米穀ノ大量買上並米穀法運用資金ヲ増額シテ四億円トスルコト，二，米穀法ノ施行ヲ朝鮮台湾ニ拡張シ米穀法ヲ根本的ニ改正スルコト，三，自作農創設維持ニ関スル根本方策ヲ樹立スルコト，四，肥料政策ヲ樹立スルコト」であった<sup>5)</sup>。ついで，大会では来賓挨拶があり，政友会の秦豊助，民政党の町田忠次の演説があった。ところが，町田忠次が政友会攻撃を行ったため，会場が騒然となり，休憩となっている。午後1時大会が再開し，新党倶楽部の東郷実，全国町村会

5) 『帝国農会報』第19巻第3号，昭和4年3月。

副会長の伊藤勇吉らの演説がなされ、そして、明日も大会を継続することにし、閉会となった。その後、委員等が田中総理等に陳情を行った。温の日記に「前八時、大会々場三会堂ニ出頭。十時頃、千二百名位来会。十時半、全国農会大会開催。今回ハ農村問題ニ対スル不満ノ声頗ル高く、頗ル真摯ナリシ。宣言修正、決議。秦豊助氏演説、町田忠次氏演説中、政友会政策攻撃ニ亘り、会員及政友会議員憤怒シ、中止ナリ。十一時五十分、中食トナス。午后一時開会。東郷実氏、伊藤勇吉氏ノ演説終り、来会十五名演説ノ時、運動法ニ関スル動議出テ、明日大会ヲ継続スルコト、シ閉会。三時、各区一名、総理、農林大臣訪問。懇親会。富山県二百五十名宿泊本願寺ニ行キ挨拶ヲナス」とある。16日は全国農会大会の2日目で、午前10時より丸の内の鉄道協会にて開会された。600余名が参集し、昨日の田中総理訪問の結果報告の後、全員政友会本部、民政党本部を訪問し、陳情し、これにて大会が閉会となった。後は道府県より各2名の実行委員が運動に当たることにした。

2月16日、農政研究会の三輪市太郎（政友会議員で、且つ帝国農会議員）外63名は、第56議会に「米穀需給調節特別会計法中改正法律案」（米穀法運用資金を現行2億円を4億円に増額する案、以下、米穀会計改正法と略）を提出した<sup>6)</sup>。

2月18日、温は全国農会大会の実行委員協議会を開いた。運動委員60余名が出席し、今後の運動方針を協議し、この日は新党倶楽部を訪問し、東郷実らに陳情した。19日は運動委員と民政党を訪問し、町田忠治らに陳情した。20日は運動委員らと各政党幹部、また、前田法制局長官を訪問し、陳情した。21日は貴族院の同和会を訪問し、陳情、また、新聞社（朝日、都、二六、帝国聯合通信）を訪問、陳情した。22日は山本農相を訪問し、米の買上げを要求、また、貴族院（同成会、同和会、交正会）を訪問した。23日も運動員一同と貴族院（研究会、火曜会）を訪問、陳情した。24日は埼玉県に行き、北埼玉

---

6)『帝国農会史稿 資料編』1218～1219頁。

郡農会主催の農会惣代会に出席し、来会の300余名に対し、講演を行い、帰京した。25日は運動員一同と貴族院（交友倶楽部）を訪問、陳情した。これにて、貴族院の団体訪問を終えた。そして、その夜6時より帝農在京評議員会を開き、運動委員と意見の交換をした。26日、温は阿部武智雄（青森県）らと藤田四郎貴族院議員を訪問し、陳情を行った。この日、三輪市太郎外63名提出の「米穀需給調節特別会計法中改正法律案」が衆議院に上程され、27名の委員会に付託された。そのため、運動員一同と議会に傍聴に行ったが、満員にて入場できなかった。27日は各運動員が知己を求めて、陳情を行った。28日、温は一同とともに貴族院に行き、林博太郎伯爵、堀田正恒伯爵を訪問し、米穀法改正の陳情を行った。

3月も温は帝国議会での米穀会計改正法実現に向けて、種々運動した。1日は運動員一同を3組に分け、衆議院の米穀会計改正法の委員を訪問した。温は民政党の野田文一郎、小山松寿代議士を訪問、陳情した。2日も衆議院に行き、政友会の池田亀治に面会した。

3月3日、温は午後10時50分発にて愛知県における講習会のため出張の途についた。翌4日午前8時半安城町に着し、安城町農会に行き、愛知県農会主催の町村農会員の講習会に出席し、この日は午前10時より午後4時半まで、翌5日は午前9時半から12時まで、農業経営、農産物価格と生産費について講義を行った。そして、12時18分安城町発にて帰京し、午後9時帰宅した。

なお、温が出張中の3月4日、田中内閣は米穀会計を現行2億円から2億7,000万円に増額する米穀会計改正法案を提出すること、議員提出案は撤回を求めることを閣議で決めている<sup>7)</sup>

3月6日、7日は温は帝農に出勤し、雑務や地方からの運動員に應對した。8日は正午より丸ノ内の鉄道協会にて開催の政友会所属農村選出代議士の農政会の発会式（40余名出席）に出席した。9日、田中内閣は「米穀需給調節特

---

7) 『帝国農会報』第19巻第3号、昭和4年3月。



別会計法改正案」(現行2億円を2億7,000万円に増額)を衆議院に上程の予定であったが、政友会、新党倶楽部提出の小選挙区制案が上程されたため、議場大混乱となり、流れた。11日も小選挙区制案騒動のために、政府側の米穀会計法改正案は上程されなかった。12日は著書の校正を行った。13日は午後5時より三会堂における貴族院の農政懇談会に出席した。貴族院の各派は米穀会計法の改正案に大体賛成の空気であった。この日の日記に「三会堂ニテ午后五時ヨリ貴族院ノ農政懇談会ヲ催フシ、三十余名出席ス。幹事ノ志村、高橋、山田、糸原氏出席。志村氏、座長ニ推サレ懇談ス。米穀法改正案ニハ大勢賛成ノ空気ナリシ。但シ、決議ハセズ。精神的申合せ位」とある。

3月14日、政府(田中政友会内閣)提出の「米穀需給調節特別会計法改正案」が漸く衆議院に上程され、農政研究会議員提出案と同一の委員会付託となった。そして、15日午前、委員会にて政府案を可決し、農政研究会議員提出案は撤回、午後の本会議で各党一致の下、政府提出案が可決された<sup>8)</sup>。この日の日記に「本日午前米穀法改正案委員会ニテ政府案可決。午后本会ニ緊急上程シ、肥料管理案ト共ニ可決ス」とある。政府案は農政研究会議員提出案に比べると微温的であったが、議員提出案が出されたことが、田中内閣をして政府案を提出せしめる契機になったことは間違いないであろう。政府案が通過したため、16日、温は欠勤し、著書の校正、執筆を行い、17日も終日著書の執筆を行った。

3月18日、政府提出の「米穀需給調節特別会計法改正案」が貴族院にまわされ、委員会に付託された。温ら運動委員一同は貴族院に働きかけを行った。日記に「出勤。貴族院ニ米穀法特別会計法改正案上程。各地ヨリ二十余県ノ運動委員上京。九州ハ福岡ノ城島、四国ハ門田君ト嘉田君(徳島)、麦生、大島、松山君等来会。委員ノ外運動ノ方針立難キヲ以テ、一同会議ノ模様ヲ待ツ。午后三時頃、委員付託(十五名)トナリ、委員決定セルヲ以テ、明日ハ六部分レ

---

8)『帝国農会報』第19巻第3号、昭和4年3月。

各委員ヲ訪問スヘク部署ヲ定ム」とある。19日、温は運動員を6隊に分け、貴族院の委員に陳情した。温は阿部武智雄とともに、加藤政之助、大河内正敏、石井省一郎貴族院議員等を訪問した（ただし、不在、病気等にて面会できなかった）。なお、この日、貴族院の米穀会計委員会では肥料案を先に審議したため、温らは不安を感じている。そのため、20日、運動員各隊が貴族院の各委員を訪問、陳情した。温は門田晋とともに前田利定、西大路吉光子爵の自宅を訪問し、また、貴族院に帰り、他の運動員とともに渡邊千冬、松平直平、松岡均平、志村源太郎等を訪問、陳情した。しかし、衆議院での小選挙区制案騒動のため、貴族院では反政府熱が高く、温は不安を感じている。この日の日記に「前八出勤。各部、手ヲ分ツテ諒解運動ヲナス。門田晋君ト共ニ前田利定子ト西大路子ヲ西大保ノ自邸ニ訪問シ、九時半貴族院ニ来リ、他ノ運動員ト渡邊千冬氏、松平直平氏、松岡均平氏、志村源太郎氏等ニ面会、陳情ヲナス。衆議院ノ区制案ノ泥仕合カ上院ニ反映シ、反政府熱益不良。米穀法ノ殆ト望ナキカ如シ。東次官ニ談判シ、運動方針変更ヲ諮ル。一日ヲ待ツコト、シテ分ル」とある。22日午前、危機感を抱いた政友会の土井権大、胎中楠右衛門、三輪市太郎らの代議士が再度農会大会の開催を帝農に求めたため、温は中央ホテルにて彼等と会合した。温はこの時期の農会大会開催の非を説き、思い止まらせている。日記に「自己宣伝ノ伴フ運動ハ時ニ有害」と記している。午後は運動員らと貴族院に詰め、米穀需給会計法改正の委員会、また、貴族院の研究会の部会を見守った。23日は、東京府農会主催の町村農会技術者講習会に出席し、農業経営について5時間ほど講義した。多忙である。24日、温は運動員一同とともに、貴族院に詰めた。米穀需給会計法改正委員会は午前、午後開かれたが、決定されず、散会した。25日、温は運動員を4隊に分け、最後の運動を行った。温は貴族院の松平直平、近藤滋弥、板谷宮吉を訪問、陳情した。その後、貴族院に運動員一同とともに詰めた。漸く、貴族院で米穀会計法改正案が可決された。この日の日記に「運動員ヲ四隊ニ分ケ、最後ノ運動ニ廻ル。自分ハ岩田清次君ト松平直平子、近藤滋弥男、板谷宮吉氏訪問。松平子一時程快

談。板野氏小話。…貴族院ニテ一同、米、肥委員会ノ模様ヲ窺フ。刻々ノ状況不明…。一時三案通過ノ見込ノ報アリシモ、結局米穀法ノミヲ通過シ、他ハ審議未了ニ決ス。而シテ米穀法ハ全員一致可決。右ハ志村氏ノ発言ニヨリ決ス。午後五時ヨリ中央亭ニテ慰勞小宴ヲ催フス。松岡、菅原、阿部、岩田、金、原、丸橋、恩地、天笠ノ九氏残留、出席ス。正副会長出席」とある。

3月26日、温は午前8時半上野発にて群馬県前橋市に行き、勢多農学校に開催の農業経営講習会証書授与式に出席し、2時間ほど講演し、終わって帰京した。27日は終日在宅し、著書の結論部分を執筆。なお、この日、帝国農会は芝協調会の仮事務所に移転している。

3月28日、温は午後10時飯田町発にて長野県南安曇郡に出張した。翌29日午前7時松本市につき、豊科に行き、豊科公会堂にて来会の120余名に対し、午後1時より4時半まで講演を行い、終わって、松本10時発にて帰京の途についた。翌30日午前7時東京飯田町につき、この日は終日在宅し、著書の執筆を行い、31日も著書の執筆を行った。

4月も温は帝農の業務を種々行い、地方に出張した。また、本月末、念願の著書を脱稿した。1日は帝農に出勤し、雑務を行い、2日は農林省に出頭し、戸田畜産局長や、荷見米穀課長に面会、3日は終日著書の執筆、4日は養蚕調査様式の考案を行い、夜は午後5時より日本橋の階樂園にて、米穀会計法改正に尽力してくれた代議士たち(池田、三輪、高橋、東郷、川崎、高田)を招き、慰勞宴を行った。5日は正副会長と帝農の敷地問題の協議をし、6日は矢作会長宅を訪問し、温の著書の序文を依頼した。また、文部省に行き、栗屋次官、西山局長に面会し、母校問題を依頼した。7日は終日著述、8日は帝農に出勤し、雑務、9日は西ヶ原に安藤副会長を訪問し、販売幹旋所計画の確定を促し、温がその任に当たることを決心している。日記に「西ヶ原ニ行キ、安藤氏ニ販売幹旋所計画ノ確定ヲ促カス。此時ハ自分其任ニ当ル決心ナリシ。午後六時ヨリ中央亭ニテ荷見、長尾、渡邊三君及正副会長、三幹事会合。販売幹旋問題ニ付、意見ノ交換ヲナス」とある。10日、勝賀瀬質帝農参事ならびに3幹

事と販売斡旋所の計画及び予算を作成し、11日、西ヶ原に安藤副会長を訪問し、販売斡旋所の計画及び予算を決定した。

4月11日、温は夜の午後9時半発にて、大阪、山口に出張の途についた。翌12日午前9時半大阪につき、中ノ島公会堂にて開会の全国市農会聯合会に出席した。13日は奈良に行き、県農会、県庁を訪問した。14日は生駒郡矢田村に行き、基本調査を指示して、大阪に帰り、山口県に向かった。15日午前7時40分山口県湯田につき、午後2時から県公会堂における大日本農会総会に出席した。16日、県公会堂における山口県農会大会、経営共進会授与式に出席し、来会の1,000余名に対し、温は農業経営と農政について講演した。終わって、愛媛への帰郷の途につき、翌17日の午後2時に帰宅した。家族一同異常なしであった。18日は松山市に行き、慎吾のための買物、19日は終日在宅し、南土居部落の区長永木亀喜と西林寺後継問題等を協議した。この日、親戚の甥・岡井一郎（妻、イワの兄・浜治郎の長男）が結婚し、20日には、叔父の義朗が突然脳貧血を起こし、人事不省となっている（27日死亡）。

4月21日、温は再び帝農の業務のために、午前10時石井発にて上京の途につき、高浜から尾道に行き、午後10時40分尾道発の普通列車にて東上し、翌22日午後11時東京に着した。23日は帝農に出勤し、雑務を処理し、道府県農会職員協議会の準備、24日は原稿（米価問題に関する農政運動）の執筆等、25日は帝国農会報の原稿（農政運動の発達過程）の執筆、また、正副会長と帝農事務所の建築等につき協議、26日は帝国農会報の原稿を執筆した。

4月26日、温は午後7時20分発にて福井県に出張の途につき、翌27日午前10時福井に着した。そして、福井県農政協会総会に出席し、来会の約30名に対し、温が米価運動の経過を報告し、種々農政問題等を協議し、午後3時閉会した。そして、午後4時30分福井発にて帰京の途につき、28日午前10時帰京した。

4月29日、温は著書の前稿を脱稿し、積年の目的を達している。この日の日記に「著書最後ノ執筆。午后二時三十八分、結論末節共同経営ノ執筆ヲ終り、

積年ノ目的ヲ達成ス。但シ、五〇〇頁ヲ限度トスル計画ナリシヲ以テ、結論中ニ引用セントセシ個人ノ経営事例及批判ヲ略シタルハ遺憾。昭和二年五月一日初稿ノ執筆ヲ始メ、本日終了」と記している。

4月30日から5月2日までの3日間、帝農は道府県農会幹事主任技師協議会を、芝公園帝国農会仮事務所にて開催した。道府県農会から61名、農林省から松村農務局長、荷見農政課長、小平米穀課長らが出席した。協議事項は農産物販売斡旋事業の帝農による統一及び農家に対し農会意識をいっそう旺盛足らしめる農会宣伝問題であった<sup>9)</sup>。

5月も帝農の業務を行い、また地方に出張した。また、叔父の岡田義朗が亡くなり、その家政整理のために帰郷する等多忙であった。3日は道府県農会養蚕主任者協議会を開催し、道府県農会から42名、農林省から明石蚕業課長、永井技師らが出席した。協議事項は道府県農会が養蚕家の利益のために産繭処理に関し善処すべき方策に関する件などであった<sup>10)</sup>。

5月4日、温は午後1時上野発にて宮城県で開催の市町村農会総代会に出席するため出張の途につき、9時40分仙台に着し、宿泊した。翌5日、柴田郡大河原町に行き、県立農学校に開催の刈田・柴田両郡の町村農会総代会に出席し、講演を行った。6日は伊具郡角田町、7日は名取郡岩沼町、8日は宮城郡原町に行き、講演を行った。そして、午後11時発にて帰京の途につき、翌9日午前8時帰宅した。この日は在宅し、著書の序文を執筆した。10、11日は帝農に出勤し、雑務。12日は終日在宅し、著書の目次の作成、および校正を行った。

5月13日、在京評議員会を開催した。岡本、加賀山、山口、池沢らが出席し、農産物販売斡旋所統一問題その他を協議した。14、15日の両日、農産物販売斡旋統一協議会を開催し、各府県の農会長、幹事、販売斡旋所の主任が出席した。それは本年度より従来道府県農会連合の下で行われていた農産物販売

---

9) 『帝国農会報』第19巻第6号。昭和4年6月。

10) 同上。

斡旋事業を帝国農会が統一することになったのでその打ち合わせのためであった。なお、事業開始は農林省からの補助金の関係上7月1日からとなった<sup>11)</sup>。そして、16日は各府県の販売斡旋所の主任と事務的な協議を行い、17日は安藤副会長、幹事と斡旋所の打ち合わせを行った。

5月17日、温は午後9時25分発にて、先月亡くなった叔父の岡田義朗家<sup>12)</sup>の家政整理のために愛媛への帰郷の途につき、翌18日夜、帰宅した。19日、新宅の故岡田義朗宅にて親族会議を開いた。後藤、八木、越智、永木<sup>13)</sup>らと協議し、義朗家の財産、負債の調査を行い、家や土地の売却を決めている。20日、温は芸備銀行に行き、義朗の土地の売却を申し出、義朗宅は後藤より川中に売却を申し出ているが、家屋敷は売却できなかった。

5月25日、温は義朗宅の家政整理を越智太郎に任せ、鳥根県へ出張した。午前7時石井を出発し、玉藻丸にて宇品に渡り、小郡を経て、この日は浜田に宿泊した。26日午前7時に浜田を出て、10時鳥根県松江市につき、直ちに町村農会長会に出席した。この日は、講師の高田保馬博士の農村疲弊の原因についての講演を聴いている。27日は午前中、温が講演した。午後は久木村の神門猪之助氏の経営を視察し、午後6時松江発にて帰京の途につき、翌28日午後7時帰宅した。

5月29日、出勤し、帝農評議員会を開催し、販売斡旋所に関する予算更正その他を協議した。30日は交友会幹事会、31日は農林省に出頭し、農業経営主任者協議会等の打ち合わせを行った。

6月も温は帝農の業務で多忙であり、またよく出張した。1日は農業経営主任者協議会の協議案の作成、2日は午前7時30分上野発にて埼玉県の八基村視察。3、4日は農林省に出頭し、農業経営農家経済改善の長期講習会の打ち

---

11) 『帝国農会報』第19巻第6号、昭和4年6月。

12) 岡田義朗家。義朗の長男・朋義は明治44年に死亡し、次男の義宏は東京に出て居らず、三男の義邦は明治42年に死亡していた。義朗家には妻のトモのみがいた。

13) 後藤は、故、朋義の妻の実家、八木は義朗の妻・トモの実家で八木忠衛。越智は北土居の越智太郎。

合わせ、5、6日も長期講習会の業務等を行った。

6月6日、温は夜11時40分発にて名古屋に出張し、翌7日午前10時名古屋に着し、赤十字楼上にて開会の関西聯合農会協議会に出席した。協議会では帝国農会に対し批判が出た。7日の日記に「帝国農会ニ対シ攻撃及注文多シ。殊ニ農会時報ニ関スル議論多シ」とある。8日も同協議会に出席し、終わって、午後9時50分名古屋発にて帰京し、翌9日午前7時東京に着した。

6月11日午後1時より首相官邸にて米穀調査会の第1回幹事会があり、出席した。この米穀調査会は第56議会の終わった直後、田中内閣が今後の米穀政策の根本方針について、また、米穀需給調節特別会計の制度について根本的に調査研究するために、5月22日に勅令で設置したもので、会長は田中義一内閣総理大臣であり、副会長は三土忠造大蔵大臣と山本悌二郎農林大臣であった。委員は全部で33名で、内訳は政府・官僚側が10名、衆議院議員が5名、貴族院議員が6名、その他学識経験者や民間のメンバーが12名であった。その他のなかに、帝農側から矢作栄蔵（帝農会長）、山田歙（福井県農会長）、米穀商人側から上田弥兵衛（東京米穀商品取引所常務理事）、林市蔵（大阪堂島米穀取引所理事長）、財界側から安川雄之助（三井物産常務）、三橋信三（三菱倉庫常務）、加藤勝太郎（名古屋商工会議所常議員）、植民地側から有賀光豊（朝鮮殖産銀行頭取）らが入っていた。幹事は農林省農務局長の松村真一郎や米穀課長の小平権一ら8名で、温もその1人であった<sup>14)</sup>。この日の幹事会では、議事、規則、特別委員の人選などを決めた。

米穀調査会の第1回総会が6月13日、首相官邸にて開催された。この日は田中会長の挨拶の後、諮問第1号「米穀の需給及価格の調節に関し執るべき方策如何」が議題に供され、阪谷芳郎（貴族院議員）、矢作栄蔵（帝国農会会長）、三輪市太郎（衆議院議員）、川崎安之助（同）、橋本圭三郎（貴族院議員）らが発言した。翌14日に第2回総会が開かれ、引き続き質疑がなされ、安川雄之

14) 『帝国農会報』第19巻第6号、昭和4年6月。

助（三井物産常務）、河田嗣郎（大坂商科大学学長）らが発言した。その後、特別委員15名（東武、吉植庄一郎、大口喜六、前田利定、橋本圭三郎、矢作栄蔵、河田嗣郎、三橋信三、安川雄之助、三輪市太郎、東郷実、川崎安之助、上田弥兵衛、加藤勝太郎、有賀光豊ら）が選出された。そして、特別委員会の委員長には貴族院議員の前田利定が選出された。

6月15日から20日まで、温は道府県農会農業経営主任者会議を帝農仮事務所にて開催した。17日には温が議長となり、主催した。18日は同会議を農林省主催にて開催し、出席した。

なお、念願の温の著書『農業経営と農政』が龍吟社から6月15日に印刷、刊行された。温は17日に著書を受け取った。17日「農業経営ト農政百部程、出来上ル」。そして、18日に、温は農業経営主任者会議に出席していた46名に著書を贈呈している。

6月19日午前10時より米穀調査会第1回特別委員会が首相官邸にて開かれ、温は幹事として出席した。この日は、現行米穀法の不備、欠陥について議論がなされた。温も幹事として発言し、米の標準価格について次のような生産費説の意見を述べた。「米穀法運用ノ方法ハ数量ニアルモ目的ハ価格ニアリ。然ラバ価格の標準ハ如何。標準価格ヲ決定セザレバ国民ハ何時迄モ苦情ヲ云フベシ。此ノ標準価格ハ生産費ニ求ムベキナリ。生産費ハ或期間ノ平均生産費ト利潤ノ平均トノ和ヲ以テセバ可ナラン。適当ナル生産地ニ於ケル五箇年間ノ平均生産費ハ標準価格タルヲ得ベシ。我国内地（北海道ヲ除ク）ノ自作農ニ関スル五箇年間平均生産費ニハ地方ニ依リ十七円ノ差異アリ。生産物ノ価格ニ高低アルハ此ノ生産費ノ差異アルニヨル。此ノ差異ヲ無視シテ一ノ標準価格ヲ算出スルハ蓋シ實際ニ符号セザルベシ。…生産費高キ地方ニハ高キ標準ヲ求メ、低キ地方ニハ低キ標準ヲ求メ、生産者ヲ奨励シ消費者ヲシテ支障ナカラシムベシ。一ノ標準価格ヲトルハ不合理ナリ。生産事情ニ依リ標準米価ニ差異アルハ必要ナリ」<sup>15)</sup>しかし、松村真一郎農務局長、小平米穀課長その他委員は「理解セサルカ如シ」という状況であった。この日の日記に「総理官邸ニテ、前十時



ヨリ米穀調査特別委員会開催。各委員全部出席。米ノ標準価格ニツキ所見ヲ述フ。松村局長，小平課長其他理解セサルカ如シ。午後三時閉会」とある。終わって、温は農業経営主任者会議に出席した。

6月20日，温は午前，農業経営主任者会議に出席した。同会議は午後1時20分に終わり，その後，温は矢作会長，川崎（民政），三輪（政友），東郷（新党倶楽部）と米穀調査会特別委員会の下相談をなし，そこで，外米専売と朝鮮・台湾米の移入管理を決めている。この日の日記に「川崎，三輪，東郷三代議士ト会長ニテ后一時集会。米穀特別委員会ノ下相談ヲナス。外米ノ専売ト鮮台米ノ移入管理ヲ決心ス」とある。植民地米の移入制限方針が打ち出された。

6月21日午前10時より首相官邸にて米穀調査会第2回特別委員会が開かれ，温は幹事として出席した。この日，植民地側の利害を代弁した有賀光豊が「朝鮮における調節実行方法」と題し，朝鮮米の内地移入制限に反対し，朝鮮米の内地移入は自由とし，総督府により朝鮮米の買上げ，内地への平均的移入案を提案した。また，財閥側の三橋信三は「米穀法改正に対する意見」と題し，米穀法は存続の立場だが，過去の運用について何の基準もなく，頻繁に発動し，財政負担も大きいと批判的で，米穀法運用の基準を設定すること，米価維持のために低利資金を供給すること，植民地に米穀法を適用すること，外国米を管理することを提案し，質疑がなされた<sup>15)</sup>。また，この日から農業経営農家経済改善指導調査長期講習会が始まった。この講習会は農業経営農家経済改善指導調査事業の拡張のために，道府県農会に副主任及び助手を設置することになり，その養成の講習会（3ヶ月）であった。温も講師陣に入った<sup>17)</sup>。また，この日，関西農会聯合会決議事項陳情委員7名が来会し，対応している。

6月22日，米穀調査会第3回特別委員会が開かれ，出席した。この日，米穀商人の上田弥兵衛が米穀法の行き詰まりを指摘し，米穀法の廃止を唱えてい

15) 『米穀調査会議事録』第1巻，99～100頁。

16) 同上，100～115頁。

17) 『帝国農会報』第19巻第7号，昭和4年7月。

る<sup>18)</sup>また、この日、温は関西農会の代表と会合し、米穀問題に関する協議をなし、来る29、30日に臨時道府県農会長大会を開催することを決めている。24日は農会の農業経営副主任の配置の整理をし、夜は講農会の懇親会に出席。25日は府県農会長会議案作成、26日は農業経営の長期講習会で、農産物の価格について1時間余り講義した。また、この日、米穀調査会委員会対策で、幹事の小平米穀課長が来会し、矢作会長に米穀政策案を提案するよう希望した。この日の日記に「米穀委員会対策。小平米穀課長来会。矢作会長ニ提案希望ノ意ヲ述ヘラル」とある。27日、温は農林省に行き、松村農務局長、小平米穀課長と米穀調査会への米穀政策の立案について協議した。28日は農業経営の長期講習会で講義を行い、また、道府県農会長会への提出の米穀政策に対する温の私案を作成した。

6月29、30日の両日、帝農は道府県農会長会議を開催した。そこで、温の米穀政策の私案が提案され、決定した。29日の日記に「出勤。米穀政策ニ対スル農会ノ態度決定ノタメ、道府県農会長会議ヲ開催ス。矢作会長司会…。自分ノ私案ヲ提出シ、結局委員会ノ原案トナル。三時ヨリ五時マテ委員会。五時ヨリ中央亭ニテ慰労会」とある。そして、30日の日記に「道府県農会長会…。午前委員会。山田歙氏委員長トナリ、自分ノ私案ヨリ骨子ヲ取り一ノ成案ヲ得。午后本会議…。委員会案ヲ可決シ、三時閉会」とある。

温の私案をもとに立案された帝国農会の米穀政策案は次のごとくである。  
「一、現行米穀法を存続し、量と価格の調節を併行す。量に関しては生産消費の権衡を考慮し、価格に関しては生産費を下ること無からしむを以て根本主義と為す。右主旨に依り現行法中改正を要する主なる事項左の如し。(一)米穀資金借入限度を四億円とすること。(二)従来米穀法施行に依り生じたる損益計算は此際国庫の負担に移すと同時に将来五ヶ年毎に一般会計に移すこと。(三)米穀法施行に要する事業費以外の経費は一般会計の負担と為すこと。

---

18)『米穀調査会議事録』128～134頁。

(四) 米穀法運用を正確ならしむ為一定の期間を限り米穀の最高最低価格を定めて公表し、之を基礎として出動するの規定を設くること。二、朝鮮台湾よりの移入米は之を専売とすること。三、朝鮮台湾に於ては別に常平制度を実行すること。四、外国よりの輸入米は之を専売と為すこと」<sup>19)</sup> このように、米穀会計の増額、米穀の最低最高価格の決定、植民地米の専売論など、米穀政策立案に関し、温の果たした役割は大きい。

7月も温は種々業務を行い、また、講習会等のために出張した。1日、温は農業経営の長期講習会の講義を午前10時前まで行い、後、矢作会長と首相官邸における米穀調査会第4回特別委員会に出席した。しかし、この日、田中内閣が張作霖事件で瓦解したため、委員会は当分延期となった。この日の日記に「出勤。十時前講義。矢作会長ト首相官邸ノ米穀調査特別委員会ニ出席ス…。政変ノタメ、当分延期スルコト、シ、正午マテニテ閉会…。朝鮮、台湾ノ出張委員等一時帰庁ス」とある。2日も温は午前10時まで講習会の講義を行った。

7月2日、田中義一内閣が張作霖事件の責任をとり総辞職し、代わって、浜口雄幸民政党内閣が誕生した。「田中内閣総辞〔職〕。組閣ノ大命、浜口民政党総裁ニ下ル」。蔵相には井上準之助、農相には町田忠治が就任した。

7月3日、温は午前10時まで講習会の講義を行い、後、実科問題で駒場を訪問した。4日も講義を行った（農産物価格論）。後、帝農幹事会を開催し、負債調査の件を協議した。5日は東京会館における福井県産米宣伝会に出席、6日は歯の修繕、7日は浜口内閣の誕生に伴い新しく就任した政務官（高田耘平ら）への祝辞の手紙、8日は午後5時より帝農の評議員会建築委員会を開催し、桑田、加賀山、山口、池沢、大木委員出席の下、岡田進一郎より帝国農会事務所建築設計の説明を受け、工事入札と決めた。9日、農林省に出頭し、高田政務次官に面会し、経営調査費に関し強く要望し、10、11日は佐賀講習の手入れ等、12、13日は米生産費調査の考究等、14日は富民協会依頼の原稿執

19) 『帝国農会報』第19巻第7号、昭和4年7月。

筆等を行った。

7月15、16日の両日、帝国農会は初めての販売斡旋所所長会を協調会館内にて開催した。17日、温は千葉市にて開催の関東東北農会聯合協議会のために千坂高興参事とともに出張し、赤十字社にて開催の協議会に出席し、18日も同協議会に出席した。翌19日、温は東京に戻り、開会中の全国道府県農会販売斡旋主任者協議会（17日～19日）に出席した<sup>20)</sup>。20日は農林省に出頭し、農会補助費削減復活問題について町田忠治農相、高田、松村両次官に最後の運動を行った。

7月20日、温は午後9時半上野発にて、農業経営視察および講習会のために秋田県に出張の途につき、翌21日午後3時山本郡富根村についた。この日は富根村共同経営を視察し、また、組合員15名に対し一場の講演を行い、翌22日は榊原村に行き、大塚千代松氏の経営を視察し、秋田に戻り宿泊した。23、24日の両日、温は秋田県農会主催の農会技術者講習会に臨み、農業経営について講義を行い、終わって、午後3時半秋田発にて帰京の途につき、翌25日午前7時帰宅した。26日、温の長男・慎吾が上京した。27、28日は書類の整理、原稿の執筆等、29日～31日は自小作の生産費調査様式の作成、佐賀講習の手入れ等を行った。

8月も温は種々業務や原稿の執筆、また、講演のために出張した。1日は佐賀講習の手入れ、2日は大蔵省、文部省を訪問し、小橋一太文相に母校問題の陳情等を行い、5日は農林省に出頭し、石黒農務局長、荷見米穀課長、小平蚕糸局長に面会し、米穀調査会の委員会等の問題について打ち合わせをした。6日は浜口内閣の実行予算への批判文を執筆、7日は帝国農会事務所地鎮祭に出席、8日は東京日々新聞への原稿（米価に対する帝国農会の態度）執筆、9日は米生産費調査農家増加案を作成し、夜は学士会館における愛媛県人会の幹事会に出席、10日は農業基本調査要項の作成、12日は母校問題で、文部省、大

---

20)『帝国農会報』第19巻第8号、昭和4年8月。帝国農会では、販売斡旋担当の幹事として、7月1日吉岡荒造を幹事として採用した。

蔵省を訪問し、小橋文相、小川政務次官に陳情、14日は東京日々原稿（米価対策について）執筆、16日は米生産制限論の原稿執筆、等々を行った。

8月17日、温は午後7時半東京発にて徳島県への農業経営研究会等出張の途についた。18日朝、大阪につき、午前9時天保山発の共同丸にて徳島県小松島に向かい、船中、米生産制限論の原稿を執筆し、午後4時小松島に着した。そして、美馬郡半田町に行き、宿泊し、翌19日、温は半田町開催の農業経営研究会に出席した。この日は篤農家の意見発表があり、ちょうど、秋蚕の上簇期と盆踊りの時期に重なり、出席者は50余名と少なかった。温は20日、21日の両日、午前10時より午後3時まで農業経営について講義を行った。終わって、午後3時半半田町を出発し、板野郡川内村に行き、中瀬宗一の経営（3町8反）を視察し、小松島に戻り、宿泊した。22日～24日は小松島町千代小学校にて開催の徳島県南部の農業経営講習会が開催され、出席した。22日の開会日は篤農家の実験談の発表があった。温は23日、24日の両日、午前9時より午後2時半まで講義を行った。出席者は400名余で多く、かつ熱心であった。24日の日記に「昨今二日共四百余ノ講習生、暑熱ノ中ニ緊張シ熱心ニ傾聴シタリ」と記している。翌25日、温は午前7時40分小松島発にて、池田町、多度津町経由にて、愛媛県へ帰省した。26日、温は愛媛県農会を訪問し、農林省提出の郡農会補助問題について協議し、27日は娘の末光家（清香）を訪問し、家政整理や孫の権一郎の教育方針の協議をし、28日は新宅の故岡田義朗宅の家政整理について、越智太郎と協議し、29日は永木と長末の耕地整理の状況を視察し、30日は温泉郡農会、果物同業組合を訪問し、31日は在宅し、来訪者への対応等をなした。帰郷しても多忙であった。

9月も温はよく出張し、また、米穀調査会幹事として多忙であった。3日、温は熊本県に出張の途についた。この日午前9時石井駅を出発し、高浜港より緑丸にて別府に向かい、午後3時半別府につき、大分に行き、豊肥線にて竹田に行き、宿泊した。そして、翌4日午後3時半熊本に着した。5日、温は玉名郡高瀬町公会堂に行き、玉名郡農会経営総代会に出席し、来会の300余名に対

し、午前10時より午後1時まで、農会経営について講演を行った。終わって、熊本に戻り、宿泊した。6日、温は菊池郡隈府に行き、同女学校講堂にて開催の農村振興講演会に出席し、来会の700余名に対し、午前10時より午後1時まで講演した。この日の日記に「終始緊張静粛ニテ好成績ナリシ」と記している。7日は鹿本郡山鹿に行き、同女学校講堂にて開催の講演会に出席し、来会の600余名に対し、3時間半ほど講演し、終わって1時間程質問に答えている。温は大変緊張したようで、この日の日記に「約三時間半程ノ講演ニ息ノ詰ル程緊張ス」とある。終わって、17時40分植木駅発にて帰京の途についた。8日も車中泊で、翌9日午前6時半東京に着した。

9月10日、午後首相官邸にて米穀調査会の幹事会があり、温は幹事として出席した。田中政友会内閣から浜口民政党内閣への交代に伴い、会長が田中義一から浜口雄幸へ、また、副会長も交代し、委員も一部交代があった。また、幹事の交代もあった。農商務省側の幹事では、松村農務局長が石黒農務局長に、小平米穀課長が荷見米穀課長に交代した。温は引き続き幹事となった。「午后、首相官邸ニテ米穀調査幹事会ヲ開ク…。松村局長カ石黒局長ニ、小平米穀課長カ荷見米穀課長ニ代ル。来ル十三日、委員会ニ対スル準備ノ打合せ…。内閣更迭ノタメ、会長以下要部変化ニ対スル諸準備ヲ協議」。11日は帝農幹事会を開き、蚕業委員会等について協議した。12日に農業経営及び農家経済長期講習会が終了し、矢作会長、農林省の村上農政課長、永松副業課長出席の下、修了証書授与式を行った。また、この日、山田歙が来会し、明日の米穀調査会特別委員会の下相談をしている。

9月13日午前11時より首相官邸にて米穀調査会の第3回総会が開かれ、浜口会長は前内閣の諮問を引き継ぐことを表明し、午後からは第5回特別委員会が開かれた。この日、矢作委員が帝農側の提案をした。それは、「米穀政策ニ関スル私案」で、第1に、現行米穀法を存続し、量と価格の調節を併行し、特に価格に関しては生産費を下らないようにすること、第2に朝鮮・台湾よりの移入米を専売とすること、第3に朝鮮・台湾に別に常平倉制度を実行するこ

と、第4に、外国米の輸入を専売とすること、等々であった<sup>21)</sup>。これは、いうまでもなく、去る6月30日の道府県農会長会議で決定した内容（温の私案をもとに決定）を矢作が提案したものであった。14日午前9時より首相官邸にて米穀調査会第6回特別委員会が開かれ、出席した。この日三輪市太郎委員から内地、朝鮮、台湾米、外米の専売案が提案されている。16日午前10時より首相官邸にて米穀調査会第7回特別委員会が開催された。この日は、三輪委員の専売案、上田弥兵衛委員の米穀法廃止論への質問が出された。

9月18日、温は帝農に出勤し、米穀調査会用の米生産費に関する資料を作成し、午後は西カ原を訪問し、安藤副会長に面会し、米問題、肥料問題、蚕業委員会問題を協議した。19日は午後農林省を訪問し、荷見米穀課長、対馬技師、朝鮮の池永技師と米穀調査会につき、意見の交換を行っている。

9月19日、温は午後7時20分上野発にて、富山県に出張の途についた。翌20日午前7時石川県河北郡津幡町につき、汽車に乗りかえ、富山県鹿島郡七尾町に行き、同公会堂にて開催の農政研究会に出席し、温が午前午後を通じて講演を行った。その夜は和倉温泉に行き、宿泊した。翌21日は午前6時20分和倉を出て、七尾町を経て、10時に富山市に入った。直ちに県会議事堂にて開催の町村農会長会に出席し、温は午後1時間半ほど米問題について講演を行った。22日は富山県の篤農家（新川郡大布施の大川茂二経営）を視察し、午後8時30分三日市発急行にて帰京の途につき、翌23日午前7時上野に着き、帰宅した。

9月24日、温は帝農に出勤し、米穀調査会用の米生産費の考案を行い、また、在京評議員会を開催し、明年度事業及び予算を協議した。25日も米生産費の考案を行い、夜は中央亭にて開催の帝農、農林省、産業組合の3者による輸出農産物協議会に出席し、26日は農業経営設計書の審査を行った。27日、28日の両日、帝農仮事務所にて全国評議員会を開催し、山田歙、池田亀治、池沢

---

21) 『米穀調査会議事録』第1巻、157～158頁。

正一，山口左一，岡本英太郎，三輪市太郎，桑田熊蔵，南鷹次郎，藤原元太郎委員の出席の下，第20回通常総会に提出する議案，明年度予算案について協議した。そのうち，矢作会長の米価政策に関する応急策の提案は異論が出て，修正されている。「全国評議員会…。長崎ノ中倉氏出席。本日ハ建議案ナリシガ，米価ノ応急策トシテ会長ノ発案ハ異論多シ。修正ヲ加ヘテ可決ス」。29日は在宅し，三井物産常務の安川雄之助の食料品価格引下げ論への反駁文を執筆した。9月30日，10月1日の両日は，去る6月29，30日開催の道府県農会長会議の決議にもとづき，米価政策実行委員会を開催した。池田亀治（秋田），南鷹次郎（北海道），池沢正一（千葉），山田歙（福井），小串清一（神奈川），松山兼三郎（愛知），松岡勝太郎（岐阜），麦生富郎（広島），長島貞（兵庫），城島春次郎（福岡）の実行委員出席の下，米価の恒久策とともに応急策について協議した。応急策について，1．本年新穀出回り期に200万石の買上げ，2．朝鮮台湾米よりの移入米に対し適当なる調節をなすこと，3．保管米に対する低利融資をなすこと，4．外米の移入制限を継続すること，を決議した。終わって，委員一同農林省を訪問し，町田農相に面会し，陳情した<sup>22)</sup>

10月も温は米穀調査会に出席し，また，帝農の業務を種々行った。1日は米価政策実行委員会の打合せ会，農林大臣訪問の後，安川雄之助の食料品価格引下げ論への反論文の執筆を行った。2日は著書の第5版のための訂正，3日は田中義一前首相の葬儀に出席，4日は農業経営設計書審査に関する仕事，5日は農林省に出頭し，米穀課に行き，矢作案の説明を行い，また，松村次官と米穀政策に関し，意見を戦わし，米生産費問題を説明している。6日は社会政策時報の原稿（農業経営より見たる小作立法）を執筆し，また，米穀調査会特別委員会における矢作案の説明文を草した。

10月7日午前10時より首相官邸にて米穀調査会の第9回特別委員会が開催され，出席した。この日は主として三橋信三案（ブルジョア側，米穀法の発動

---

22)『帝国農会報』第19巻第11号，昭和4年11月。



の制限案)と、有賀光豊案(植民地側、植民地米移入規制反対案)について質疑がなされた。また、温は帝国農会調査の米生産費を資料として配布した。8日午前10時半より首相官邸にて米穀調査会の第10回特別委員会が開催され、出席した。この日、有賀案と加藤勝太郎案(ブルジョア側、米穀法の発動の制限)について質疑がなされた。9日午前10時15分より首相官邸にて米穀調査会の第11回特別委員会が開催され、出席した。この日は上山満之進案(貴族院議員、米価調節基準の設定論)について質疑がなされた。

10月10日以降も、温は種々業務を行った。10日は村上代議士と農相官邸に行き、肥料政策について意見の交換を行った。11日は農業経営設計書の配送の業務を行い、また、夜は輸出入農産物に関する委員会に出席し、12日は母校問題で文部省を訪問し、13日は終日在宅し、原稿の執筆(著書の改訂、研究を要する地代論、米生産制限論)を行い、14日、15日は富根村の共同経営の分配方法を考察し、16日は全国農学校校長会に出席し、17日は講農会の懇親会に出席した。18日は浜口民政党内閣の緊縮政策に伴う農林省予算の削減、農会予算の削減に対し、矢作会長を訪問し、また、帝農にて正副会長、幹事会を開き、対策を協議した。この日の日記に「早朝、矢作先生宅訪問。農林省予算大蔵省大削減(農会四割強削)ヲ伝へ、対策ヲ協議シ、更ニ農林省ニ出頭シタルニ、已ニ石黒局長ヲ中心ニ復活協議中。帝国農会ニテハ午後、正副会長、幹事会ヲ開キ、対策考究…。農林省ニテ一割強ノ復活案ヲ作成シタル趣ナルヲ以テ、暫ク状況ヲ觀ルコト、セリ」とある。19日は共同経営の分配案の比較研究、20日は奈良県矢田村の基本調査の編集を行った。20日、温は農林省に出頭し、町田農相、石黒農務局長、河湊会計課長、村上農政課長に面会し、農会補助について「強硬」に希望を述べ、また、午後は高田、松村兩次官に面会し、同様の要望をした。この日の日記に「出勤。農林省ニ出頭シ、町田農相、石黒農務局長、河湊会計課長、村上農政課長ニ面会、農会補助ニツキ強硬ニ希望ヲ述フ。午後。高田、松村兩次官ニ面会シ、特ニ高田政務次官ヘハ農会補助ニ大削減ヲ加フルノ不得策ヲ述へ、反省ヲ促シタリ」とある。22日も農林省

を訪問し、山道参与官に農会補助について陳情した。23日は母校問題に関し、文部省を訪問し、情勢を聞いた。

10月24日午前10時より首相官邸にて米穀調査会の第12回特別委員会があり、出席した。この日、上田案（米穀商側、米穀法廃止論）を否決した。25日も米穀調査会の第13回特別委員会があり、出席し、三輪案（米専売案）が討議され、否決された。26日から帝農の全国評議員会が始まったが、この日米穀調査会の第14回特別委員会があり、こちらの方が重要なので出席した。この日、米穀法の価格調節の可否が問題となり、価格調節撤廃すべからずに決した。終わって、温は帝農評議員会に出席した。27日は午前帝農評議員会に出席、午後は帝農事務所建築委員会に出席した。この日、温は石黒幹事に米穀調査会の小委員会設置にあたり、矢作、上山、東郷の3人は必要との手紙を速達にて出した。「石黒忠篤氏ニ米・調小委員ニツキ、矢作、上山、東郷三人ハ逸スヘカラサルコトノ注意ノ手紙ヲ出ス」。

10月28日から4日間の日程で、第20回帝国農会通常総会が赤坂三会堂会議室にて開催された。町田農相が臨席し、農政上の所見を述べた。温は「要ヲ得タリ」と評している。そして、予算案等諸案の報告（増田昇一幹事）がなされた。また、この日、午後1時過ぎより首相官邸にて米穀調査会の第15回特別委員会が開催された。特別委員会は小委員会を設置し、原案を検討することになった。そして、小委員に前田、上山、矢作、三輪、河田、有賀、三橋の7人が選出された。このメンバーは、温の提案の通りであった。日記に「米穀調査特別委員会ハ午后一時ヨリ開会。直ニ小委員七名ニ移シテ、閉会ス。小委員ハ前田、上山、矢作、三輪、河田、有賀、三橋ノ七人…。自分提案ヨリ大勢決ス」とある。29日は帝農総会の2日目で、各建議案が提案（高島一郎幹事）された。30日は大会の3日目であるが、この日、米穀調査会特別委員会の第1回小委員会があり、温は矢作会長とともに出席した。外米問題が議題となり、外米専売案は反対が4名で多かった。31日は大会の4日目で、各建議案が議決され、閉会した<sup>23)</sup>。この日も午後2時より米穀調査会特別委員会の第2

回小委員会があり、温は総会を欠席して小委員会に出席した。台湾からの移入米について討議がなされた。

11月も温は多忙であった。種々業務を行い、また、米穀調査会の小委員会に出席した。1日は赤坂三会堂にて帝国農政協会総会を開催した。37名が出席し、前年より緊張した総会であった。「三会堂ニ於テ農政協会開会。前年度ヨリ出席多シ。三十七人。中倉万次郎氏ヲ座長トシテ協議ス。福島ノ小松幹夫氏終始議論ヲナシ、従来ニ比シ緊張セリ。結局常務員ニ後事ヲ托シテ予算ヲ決議ス。夜、常務（松山、松岡、麦生、南部、山崎、原）ニテ組織更新ノツキ協議ス。結局正副会長ノ賛同ヲ得テ、帝国農会ニテ一層力ヲ注クコトヲ協議ス」。2日には農政協会のメンバー（松山、松岡、麦生、原、山崎）が来会し、農政協会更正について正副会長に談判し、意見を闘わせている。4日は表彰農会の表彰文を執筆し、また、正副会長と農政協会の善後策について協議、5日は表彰農会の表彰文、共同経営の設計審査し、6日は共同経営設計書の審査、夜は中央亭にて陸軍省経理課の小野寺らと兎毛皮の件について意見の交換を行い、7日は午前は兎毛皮輸出貿易協議会に出席し、午後は首相官邸における米穀調査会第3回小委員会に出席し、朝鮮からの移入米問題について協議したが、何も決しなかった。8日午前は正副会長と地租改正委員、小作法制定委員の選定、また、下級農会技術員養成費目について減額を協議した。午後は米穀調査会の第4回小委員会に出席し、朝鮮米移入問題を協議したが、やはり未決で

---

23) 第20回帝国農会通常総会で議決された建議のうち「米価政策に関する建議」は次の通りである。甲、米価調節恒久策。現行米穀法を存続し、価格は生産費を下らないようにすること。朝鮮、台湾米の移入は専売とすること。朝鮮、台湾に常平倉制度を実行すること。外米は専売とすること。乙、本年度新穀の価格に対する応急策。台湾米の移入の制限。新穀出回り期における内地米の買上げ。外米輸入制限。低利資金の供給。その他の建議は「農会に対する国庫補助金に関する建議」（郡市町村農会技術員に対する奨励金を増額し、俸給額の3分の1以上とすること、農産物販売斡旋の出荷団体への補助金の増額）、「農会法改正に関する建議」「農産物鉄道輸送に関する建議」「農会の養蚕施設助成に関する建議」「肥料政策確立に関する建議」「自作農創設に関する建議」「農業財産相続に関する建議」「生糸輸入関税に関する建議」「牛肉税に関する建議」であった（『帝国農会報』第19巻第12号、昭和4年12月）。

あった。9日も米穀調査会の第5回小委員会に出席し、朝鮮米移入問題について矢作案（朝鮮米移入の専売案）を協議したが、また、決まらなかった。10日、11日は帝農職員とともに神奈川県湯河原温泉に旅行した。12日は共同経営設計書の審査の業務を行い、また、原稿（農村経済受難時代）を執筆した。13日は、朝鮮総督府技師の三井栄長が来会し、対立している朝鮮米移入について協議し、また、午後からは帝農評議員会を開催し、正副会長、山口、池沢委員出席の下、農会の表彰文、旱害地の救済策、低利資金の融通、政府持米の払い下げ、応急米価政策等について協議した。14日は農会の表彰文の改作、等を行い、15日は米穀法問題で、兵庫県農会長山脇延吉、長島幹事に手紙を書いた。16日は拓務省を訪れ、小坂順造拓務政務次官に面会し、米穀政策の打ち合わせを行い、そこで、朝鮮米の移入許可制に朝鮮側が大騒ぎとの情報を受けている。この日の日記に「拓務省ニ小坂次官ヲ訪問。米穀政策ニ付打合ヲナス。移入許可問題ニ付、朝鮮大ニ騒キ居ルトノ情報アリ」。17日は駒場の運動会を見学し、18日は農業経営設計書審査を行い、また、電通記者に金解禁と農業経営について話を行った。19日も経営設計書審査等を行い、また、農林省を訪問した。農林省内では米穀問題をめぐって、松村次官と石黒局長の意見が対立していたようである。この日の日記に「農林省ニ高田次官ヲ訪問シタルモ、行違ヒニテ面会シ得ズ…。米穀問題ニ付、松村次官ト石黒局長ト意見一致セス。其問題ノタメナリシモ。荷見課長ニ面会シテ帰ル」とある。20日午後1時半より首相官邸にて米穀調査会の第6回小委員会があり、出席した。この日は台湾米の統制と内地米の米価基準設定問題について討議した。朝鮮側から続々移入制限反対の情報が来ていた。21日は午前小作法委員会を開催し、午後は1時半より首相官邸にて米穀調査会の第7回小委員会があり、出席した。この日は内地米の米価基準について生産費を基礎とすることを決定した。この日の日記に「午後一時半ヨリ首相官邸ニテ米穀小委員会…。米価基準問題ニ付協議…。生産費ヲ基礎トスル基準価格決定シ決ス…。三対ニテ…。上山、三橋氏反対、矢作、三輪、河田賛成。有賀主旨ノミニ賛ス」とある。帝農側の

案が通過したわけである。22日は午前地租改正委員会を開催し、また、午前10時30分より首相官邸にて米穀調査会の第8回小委員会があり、出席した。この日は将来おこるべき米穀特別会計の損失に関する対策について協議した。23、24日は在宅し、農業経営設計書の概評を行い、25、26日の両日は農業経営審査会を行い、那須、加賀山、村上農政課長、正副会長ら出席の下、審査した。27日は農業経営審査会の後片付、また、朝鮮総督府の三井技師が来会し、明日の米穀調査会の小委員会の打ち合わせを行った。28日午後1時半より首相官邸にて米穀調査会の第9回小委員会があり、出席した。この日、外米専売案は否決となり、上山委員の外米管理統制案が可決された。朝鮮米の移入については、朝鮮総督府の意見を聞くこととした。29日午前10時より農相官邸にて、米穀調査会の第9回小委員会があり、出席した。この日、矢作委員の基金案(内地米200万石、外米100万石を買いうる基金)が出されたが、否決され、米穀特別会計の赤字について、一般会計より利子を補給する案は可決された。これにて、小委員会は議了した。この日の日記に「午前十時ヨリ農相官邸ニテ米・調小委員会開催。矢作案基金制破レ、利子補填案成立シ、右ニテ小委員会ニテノ各案議了。米穀政策ノ国策的方針略確定ス。来月十二日ヨリ特別委員会開会」とある。この小委員会で決定された「国策的」案は次の通りである。1. 外米は輸入許可制とすること、2. 朝鮮米は月別平均的に移入するため、総督府に於いて適当なる方策を樹立すること、3. 台湾米については特別施設をなさざること、4. 内地米に関しては、(イ)米穀法適用のために生産費ならびに生計費を基礎とする米価基準案を設けること、(ロ)内地に農業倉庫を普及せしめならびに低利資金を融通すること、(ハ)特別会計借り入れ金利子を一般会計から補給すること、(ニ)米穀法の運用により生じたる特別会計の過去の損失分は一般会計に移すこと、であった<sup>24)</sup>

11月29日、温は午後8時40分東京発にて鹿児島に出張の途につき、12月

---

24)『米穀調査会議事録』第2巻、94頁。『帝国農会報』第20巻第1号、昭和5年1月。

1日午前7時20分鹿児島に着した。温は午前中は図書館にて開催の九州沖縄農業経営主任者協議会に出席した。午後は一同と谷山町上福元の篤農家小原仁次郎の煙草経営を視察した。2日は県農会楼上にて開催の農業経営研究会に出席し、温は午後2時から、来会の40余名に対し、農業経営について講演を行った。3日は午前9時より午後3時まで九州沖縄農業経営主任者協議会に出席し、意見の交換を行った。終わって物産陳列場を参観し、あと、大学時代の恩師の玉利喜造先生宅を訪問し、全国農事会当時の思い出を語り合っている。4日は田代の吉田与吉の農業経営、東川内の森永光志の農業経営を視察し、午後9時50分川内町発にて帰京の途に着き、6日午前11時東京に着した。

12月7日以降、温は種々業務を行い、米穀調査会の委員会や各種委員会に出席し、多忙であった。7日は午後5時より日比谷食堂にて帝国農会販売斡旋統一の披露宴会があり、出席した。11日は午後諸樂園にて、河田嗣郎、矢作会長と食事をともにしながら、米穀調査会の特別委員会に臨む態度を協議した。

12月12日午後1時より首相官邸にて米穀調査会第16回特別委員会があり、出席した。前田委員長より小委員会の決議が報告され、外米輸入許可制から議題に入った。13日午前緊急の在京評議員会を開催し、桑田、岡本、山口、池沢、三輪及び正副会長が出席し、河田嗣郎博士提案の内地米の米価基準価格に関する提案について協議し、賛成しないことを決めている。この日、午後1時半より首相官邸にて米穀調査会の第17回特別委員会があり、出席した。この日、外米輸入の許可制案が可決された。14日は帝農内の地租改正調査委員会を開き、神戸正雄、岡本英太郎、月田藤三郎、山口左一、池沢正一、正副会長、幹事出席の下に協議し、温の提案により、旧地租を還元して賃貸価格とするの説が採用されている。15日は青山広徳寺にて開催の講農会の追悼会及び新入生歓迎会に出席した。16日は午前帝農内の小作法案調査委員会に出席した。また、この日午後は首相官邸における米穀調査会の第18回特別委員会があり、出席した。この日は米価基準設定案が議題となった。17日も午前

農内の小作法案調査委員会に出席し、午後は首相官邸における米穀調査会第19回特別委員会があり、出席した。この日も米価基準設定案が議題となったが、決まらなかった。18、19日の両日、午後1時より農相官邸にて小作調査会第6回総会があり、温は臨時委員として出席した。この総会では、石黒農務局長より、小作争議のその後の変遷状況、小作法草案に対する地主側、小作側の意見、社会政策審議会における審議の経過の報告があり、小作請負契約、作況調査、永小作権問題について、議論し、昭和2年に発表された小作法案を若干の改訂の上、議会に提出されることになった<sup>25)</sup>。20日午後1時より首相官邸にて米穀調査会の第20回特別委員会があり、出席した。この日は米価基準設定論については票決を先送りとし、農業倉庫奨励案、低利資金供給案について論議がなされた。21日も午前10時より首相官邸にて米穀調査会の第21回特別委員会があり、出席した。この日、漸く、朝鮮米の移入問題を除き、答申案が決まった。この日の日記に「午前10時ヨリ首相官邸ニテ米穀特別委員会開会…。連日論議サレシ米価基準問題ヲ決シ、農倉、低資問題ヲ決シ、朝鮮米問題ニ付、松村殖産局長ノ総督代理ノ言明ニ対シ、質問応答、遂ニ決定ニ至ラズ。明年一月中旬同会ヲ予報シテ散会」とある。23日は農業経営審査常置委員会を開催、佐藤寛治、渡邊保治出席のもと、審議し、24日は買い物を行った。25日、温は千葉県学務課主催の講演会のために出張した。この日午前9時20分両国を出発し、千葉に行き、千葉県師範学校にて来会の小学校、農学校、師範学校、中学校の教員ら約600名に対し、午前11時より午後3時まで農業経営について講演を行った。26日も午前9時より正午まで講演した。終わって、帰京した。

12月28日午後9時20分東京発にて帰郷の途につき、29日尾道をへて、帰宅した。30、31日は迎年の準備をした。

---

25) 『帝国農会報』第20巻第1号、昭和5年1月。

## 第2節 講農会，東京帝国大学農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続け、東京帝国大学農学部実科独立運動に向けて本年も活動した。

実科独立運動に関しては、前年に文部省は実科独立予算を計上したが、大蔵省が不急と認めて、削除されていた。3月22日、温は午後6時より帝農にて交友会幹事会を開き、母校問題に関する協議を行い、4月6日には温は原鉄五郎(駒場交友会副会頭)とともに文部省に行き、粟屋次官、西山局長に面会し、母校問題を陳情し、6月25日には大蔵省を訪問し、関原主計課長に面会し、実科問題を陳情した。7月8日にも文部省に行き、粟屋次官、赤間専門学務局長に面会し、実科問題の陳情をした。11日には東京帝国大学に行き、古在由直前総長を訪問し、母校問題について懇談し、20日にも古在博士を訪問した。8月2日には、小野重行(衆議院議員)、原鉄五郎、中村道三郎(交友会理事)、奥野道夫とともに、大蔵、文部両省を訪問し、小橋文相、井上蔵相に面会し、実科独立の陳情を行った。12日にも西大路吉光子爵(駒場交友会会頭)とともに文部省を訪問し、野村、粟屋両次官、赤間専門学務局長に面会し、母校問題の陳情を行い、また、午後は小橋文相および大蔵省小川政務次官に面会し、陳情を続けた。10月12日、温は文部省を訪問し、赤間局長、河原会計課長に面会し、母校問題の独立予算の計上の状況を聞いている。23日も文部省を訪問し、赤間局長に面会し、母校問題の状況を聞いたが、緊縮予算のために帝大、一高ともに工事が1年延期の由にて、実科独立予算は絶望的であった。24日の早朝、古在由直前帝大総長を訪問し、工事延期ならびに実科問題延期の模様を聞いた。本年も前年同様に、実科独立予算は大蔵省により削除された。12月26日、温は交友会幹事会を開き、母校問題の顛末を報告した。

## 第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香(明治28年3月21日生まれ、33歳)は末光家で子供3人(照香、権一郎、満子)を育てている。



次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、26歳）は、温と同居し、作家として活動している。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、20歳）は、温、禎子と同居し、帝国女子専門学校に通っていたが、本年3月24日卒業した。綾子は引き続き、東京に居た。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、16歳）は、母のイワとともに暮らし、松山中学に通っていた。7月26日、慎吾が夏休みを利用して上京した。

親戚関係では、新宅の義朗叔父が4月20日、突然倒れ、人事不省重態となり、27日死亡した。また、祖父の末光徳太郎（温泉郡南吉井村大字南野田、温の娘の夫・故順一郎の父親）が8月12日死亡した。8月25日、温は帰省した際、末光家ならびに義朗家の家産整理等について親戚と協議している。